



中学校に消防団屯所を併設する レジリエンスなまちづくり

奈良県 三郷町総務部まちづくり推進課

1 はじめに

三郷町は、奈良県の北西部に位置し、東西に 5.6km、南北に 3.5km、面積が 8.79 km²と非常にコンパクトなまちで、隣接する大阪のベッドタウンとして発展してきました。三郷町誕生から町の発展に寄り添い、住民の安全を守ってきた三郷町消防団は第1分団から第5分団で組織しており、現在も活発に活動されています。立野北一丁目に屯所を構える消防団第1分団では、緊急時に的確に活動できるように毎月訓練を実施されています。この第1分団屯所は建物の



三郷中学校全景



三郷町消防団第1分団屯所正面画像

老朽化が進んでおり、耐震改修をしていないだけでなく、屯所敷地が水害の浸水想定区域内に指定されたことから、安全な場所への移設が必要となっていました。その同時期に、近接している三郷中学校が老朽化に伴い建替えが決まったことから、中学校と消防団屯所を合築して複合施設を建築する計画とし、平成29年5月から平成31年3月の2ヶ年で工事を完了しました。

2 複合施設となった中学校

中学校と消防団屯所では、用途・使用者が異なるため、それぞれのセキュリティ等への配慮が重要であることから、消防団屯所は建物内で独立し、中学校部分との行き来が出来ない構造としました。また、消防団第1分団屯所の前には、建物基礎を活用した防火水槽（40t）を整備し、近隣での火災発生時には消防車を横付けし、消火活動を行えるよう工夫しました。

三郷町では三郷中学校体育館を避難所（収容人数：625人）に指定していることから、体育館に面して備蓄倉庫を整備し、災害時に迅速に避難所の開設や備蓄品の提供を行うことができる配置としました。また、駐車場には流下式（6基）と貯留式（4基）のマンホールトイレを整備しており、屋上プールの水を活用して流下させる仕組みで、断水時にも使用可能です。さらに、建物屋上に太陽光発電設備と蓄電池を設置しており、災害時には指定避難所となる体育館の予備電源として確保しています。

消防団屯所の横には福祉避難所（収容人



三郷中学校と消防車



消防団訓練の様子

数:33人 対象:要支援者)も整備しました。三郷町東部には支援の必要な方が避難する為の福祉避難所が給食センター内に整備されていましたが、西部には整備されておらず、早急な対応を求める声が多くありました。中学校の建替えに伴い整備したことで、指定避難所の体育館と並行して活用することができ、より多くの住民の方に安心・安全な避難所を提供できる複合施設となりました。

3 公共施設の適正管理

老朽化した中学校と消防団屯所を合築することは、ファシリティマネジメントの観点から、非常に有効な手段といえます。それぞれの施設を集約し、複合施設として整備することで、効率的に公共施設を整備し、工事費用及び維持管理経費を削減させることができました。また、移転した消防団屯所の跡地は、別用途で有効に活用されています。

4 おわりに

消防団は火災時の初期消火活動だけでなく、災害時の緊急対応や行方不明者の捜索など幅広い分野で活躍しており、地域にとって必要不可欠な存在ですが、慢性的な担い手不足という大きな課題を抱えています。

今回、消防団屯所を中学校に併設したことで、中学生が消防団の様々な活動や訓練に触れ、消防団を身近に感じ、地域に貢献したいと思う心を育む機会となっており、将来消防団へ入団するきっかけとなることを期待しています。

また、消防団員にとっても、自分たちの活動を日頃から中学生に示すことができるため、団員一人ひとりの規範意識が向上しています。

災害時に指定避難所となる中学校体育館と福祉避難所を整備したことで、この複合施設は防災上の重要な避難拠点となりました。その避難拠点に、災害時に中心的な役割を担う消防団屯所が併設されていることは、迅速かつ効率的な災害対応が可能となり、住民にとって大きな安心につながりました。

中学校と消防団屯所を合築することは、老朽化したそれぞれの施設を効率的に整備するというハード面の効果だけでなく、ソフト面においても非常に大きな効果をもたらすものであり、安心・安全でレジリエンスなまちづくりにつながる、先進的な取り組みとなりました。